

自然の癒やし 今後を探る 園芸療法

C・W・ニコル氏ら講演



各国の園芸療法の課題などについて報告するパネリスト＝東浦町の淡路夢舞台国際会議場

園芸療法

東浦でサミット
7カ国530人参加

心を癒やしてくれる花と緑の素晴らしさを発信し、震災で受けた支援にこたえようと「園芸療法国際サミット2004」(県、人間・植物関係学会共催)が五日、東浦町の淡路夢舞台国際会議場で開かれた。七カ国から約五百三十人が出席。作家のC・W・ニコル氏の講演と討議があり、園芸療法発展のため、社会、ネットワークづくりの推進を確認した。

「花と緑、そして自然の療法的力を探る」ひょうやぶでは木を間引くなど「貧弱な森は鉄砲水と人の共生」の題で講演。「自然の再生」の題で講演。森の再生に取り組んでいるニコル氏が「自然と人の共生」の題で講演。森の再生に取り組んでいるニコル氏が「自然と人の共生」の題で講演。

「障害者、高齢者のリハビリ」をテーマにオーストラリア、カナダ、ドイツ、韓国、イギリス、アメリカと日本のNPO、行政関係者らが参加した。

淡路人形浄瑠璃上演で暮を開けたあと、昭和五十五年から長野県に住み、森の再生に取り組んでいるニコル氏が「自然と人の共生」の題で講演。「貧弱な森は鉄砲水と人の共生」の題で講演。

国際園芸療法サミット

園芸療法の普及を

12カ国の代表ら参加

植物とのふれ合いを高齢者や障害者の心身のリハビリにつなげる「園芸療法」について、現状と課題を検証する「園芸療法国際サミット」が五日、兵庫県津名郡東浦町の県立淡路夢舞台国際会議場で開かれた。日本など十二カ国の代表や市民ら約五百三十人が参加した。

荒れた里山の再生に取り組む作家のC・W・ニコルさん＝長野県在住＝が講演。「日本では多くの動植物が棲む原生林が伐採されている。生態系を守る」などと体験談を交えながら話した。

支援システムとして認められている(ドイツ)、「阪神・淡路大震災の時、花や緑に癒やされた人は多かった。単なる技術ではなく、心も理解できる専門職が必要」(日本)などと、自国の現状や課題を報告。さらに、国際会議の継続開催の検討などを確認した。